喜多流 第53回 青年能

源氏供養　高林昌司

野守　狩野祐一

令和5年5月27日（土）　矢来能楽堂

13:00開演（12:00開場）

主催:公益財団法人十四世六平太記念財団

協力:一般社団法人喜多職分会

チケットご購入のご案内

一般前売券4,500円（当日券5,000円）/学生前売券2,000円（当日券2,500円）

発売日：令和5年2月26日（日）　※全席自由席

喜多能楽堂改修工事の為、令和5年度青年能会場は矢来能楽堂となります。
令和5年度青年能　5月27日（土）・9月23日（祝・土）

会場住所・矢来能楽堂　東京都新宿区矢来町60番地
会場のお問い合わせ・矢来能楽堂 TEL03-3268-7311
公演のお問い合わせ・公益財団法人十四六平太記念財団 TEL03-3491-8813

●インターネット　（24時間対応、要登録・無料）

喜多能楽堂ホームページ　http://kita-noh.com/

[お受け取り・お支払い]

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

●電話予約

喜多能楽堂事務局　TEL 03-3491-8813
（午前10時～午後6時 休館日あり）

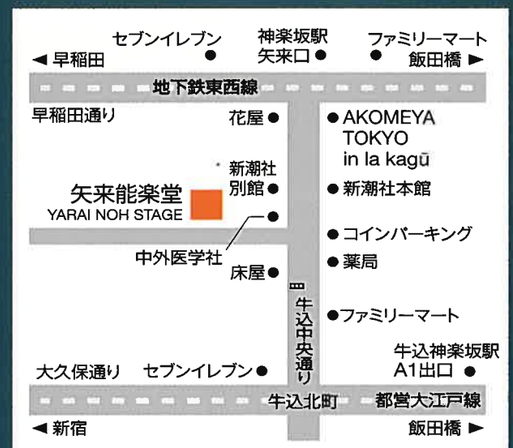
[お受け取り・お支払い]

①セブンイレブン
ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送
チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

●各同人でもチケットを受付しております。

※お受け取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。
ご予約の際ご案内いたします。
※ご予約いただいたチケットのキャンセル・変更はできません。



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分
都営大江戸線牛込神楽坂駅A1出口より徒歩5分
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

＊ご注意

※新型コロナウイルス感染の地域における動向や政府等の通達を踏まえ、必要に応じて適宜改訂する場合がございます。

- 公演中の途中入場はお断りいたします。
- 未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- 許可なき写真ビデオ撮影及び録音はお断りいたします。
- 客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断り致します。
- お席を離れる場合は貴重品お手回り品にご注意ください。盗難紛失についての責任は負いかねます。
- 係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

矢来能楽堂における感染予防措置はこちらをご覧ください。

●次回喜多流青年能予告

令和5年9月23日（祝・土）13時始　矢来能楽堂　半蔀　谷　友矩　是界　金子龍晟

番組

仕舞
竹生島　大島伊織
雲雀山　谷友矩
殺生石　金子龍晟
狩野祐一
佐藤寛泰
塩津圭介
佐藤陽

能
源氏供養

後シテ・紫式部の霊　前シテ・里女　髙林昌司
ワキ連・従者　村瀬慧
ワキ・安居院法印　福王和幸
ワキ連・従者　村瀬提
大鼓　大倉慶乃助
小鼓　飯冨孔明
笛　小野寺竜一
後見　中村邦生　金子龍晟
地謡　狩野祐一　佐藤寛泰　髙林呻二　谷友矩　佐々木多門　内田成信　友枝雄人　粟谷浩之

…休憩二十分…

狂言
千鳥

シテ・太郎冠者　野村万之丞
アド・主人　野村拳之介
小アド・酒屋　石井康太

…休憩十分…

能
野守

後シテ・鬼神　前シテ・野守　狩野祐一
ワキ・山伏　矢野昌平
間・春日の里人　河野佑紀
大鼓　原岡一之
小鼓　曽和伊喜夫
太鼓　吉谷潔
笛　藤田貴寛
後見　狩野了一　谷友矩
地謡　金子龍晟　佐藤陽　塩津圭介　髙林昌司　粟谷充雄　金子敬一郎　大島輝久　友枝真也

附祝言

終了予定 午後4時50分頃

源氏供養（げんじくよう）

文芸によって仏の教えを弘める唱導の大家・安居院法印が石山寺を訪れると、そこへ紫式部の霊が現れる。式部は自らが生前に虚構の物語（源氏物語）を書いた罪が重いために今なお苦しんでいると明かすと法印に供養を頼み、姿を消してしまう。

法印が回向をしていると、式部の霊が在りし日の姿で現れ法印の弔いに感謝して舞を舞う。式部は無常の世を観じて救済を願う自らの思いを舞に託すと、ついに救われる身を得たことを明かし、消えてゆくのであった。

〈約七十五分〉

千鳥（ちどり）

主人から来客があるので酒を買って来いと命じられた太郎冠者は渋々酒屋へ出向く。しかしこれまでの支払いも滞っているため酒屋もなかなか酒を売らない。そこで太郎冠者は尾張の津島祭の話を取り上げ、子ども達が千鳥を捕る様子や流鏑馬で馬を操る仕草など調子よく囃し、酒屋の亭主を油断させ、その隙に酒樽を持ち去ろうと試みますが…。

〈約三十五分〉

野守（のもり）

出羽の国・羽黒山の山伏が、大峯葛城へ向かう途中に大和の国・春日の里に着く。名所を尋ねようと人を待っていると、野の番をしている野守の老人が現れる。山伏が池について老人に尋ねると、その池が野守の鏡であることを教える。野守の鏡とは、野守を映すものであると共に鬼神が持っていた鏡である。昔この野に住んでいた鬼が、昼は人の姿で野を守り夜は野にある塚に入って住んでいたと老人は語る。さらに山伏は、「はし鷹の野守の鏡」と和歌に詠まれたのもこの水についてのことなのか尋ね、老人はそのいわれについて語る。山伏は野守の鏡を見たいと言うと、老人は鬼の持つ鏡は恐ろしいものであるから、この水鏡を見るようにと言い、塚の中へと消えていく。

里人から野守の鏡の由来などを聞いた山伏は、塚の前で祈祷する。すると、鬼神が鏡を持って現われ、四方八方、天界から地獄まで、様々なものを鏡に映し出す。やがて鬼神は大地を踏み破って奈落の底へと消えていくのであった。

〈約七十分〉